

院外処方せん発行説明資料

平成 30 年 2 月 16 日

【目次】

1. 当院の診療体制について	2
2. 院外調剤 基本ルールについて	2
3. 半錠調剤の内規について	3
4. 散剤調剤の内規について	4
5. 粉碎調剤の内規について	5
6. 一包化調剤について	5
7. 簡易懸濁法について	7
8. 外用剤内規について	7
9. 患者への説明の統一	9
10. その他	10
11. 疑義照会について	10

地方独立行政法人 芦屋中央病院 薬剤部

1. 当院の診療体制について

【院外処方箋発行 開始日】

平成 30 年 3 月 2 日（金）～

【院外処方箋発行 時間】

月曜～金曜日 8 時 30 分～18 時 00 分

土曜日 8 時 30 分～14 時 00 分

【1 日当り 処方せん】

発行枚数 平成 30 年 1 月

平日平均：172.6 枚

土曜平均：70.7 枚

【採用薬品数（外来交付分）】

平成 30 年 1 月薬事委員会後現在

内服薬：457 種類

外用薬：177 種類

注射薬：16 種類（一部）

2. 院外調剤 基本ルールについて

【院外処方せんの記載事項について】

- ▶ 内服薬
1 日分量・処方日数を記載
- ▶ 頓服薬
1 回分量・回数を記載
- ▶ 外用薬
投与総量を記載

☆特定日服用薬剤（曜日・隔日等）：実日数で明記

【投薬における基本ルール】

- ① 透析患者は水分制限があるため、食直後で処方する。
例外）メーカーの服用指定がある薬剤の場合はそのまま交付。
- ② 長期投与ができない薬剤がある場合、その薬剤のみ、
又はすべての処方内容の日数を 30 日以内とする。
患者や家族の希望可能（疑義照会 FAX へ）

③ 規格が2種類以上ある場合は組み合わせて交付可能。

例) ワーファリン 1.5 mg 1×朝食後

⇒ワーファリン 1 mg 1錠 +ワーファリン 0.5 mg 1錠で交付

④ 可能な限り、文面を添付し患者説明する。

【事前に医師と合意した投薬ルール】

①漢方薬については食前、食直前、食間とする。

②メーカー指定の服用方法がある場合はその方法にする。

例) エパデールS 食直後で交付

アコファイド 食前で交付

③外用薬等は「医師の指示通り」の不可

★不明な場合は疑義照会 FAX 等で対応いたします。

【処方箋上の表記（不均等表示）】

処方例)

メトグルコ錠 250 mg 4錠

0-2-1-1-0-0 で投与

朝：2錠

昼：1錠

夕：1錠

朝昼夕食直前

35日分

《以下余白》

3.半錠調剤の内規について

【半錠調剤の内規】

① 原則、半錠の指示はすべて分包する。

② 但し、1錠を超える場合はヒートと分包を交付する。

③ 半錠にできないものは粉砕調剤する。

④ 患者・家族等が分包を望まない場合はそのまま交付する。

《具体例》

① 原則、半錠の指示はすべて分包する。

RP1 フロセミド錠 20 mg 0.5 錠
1×朝食後 28 日分
⇒フロセミド 20 mgを半錠に割って分包する。

②但し、1 錠を超える場合はヒートと分包を交付する。

RP1 フロセミド錠 20 mg 1.5 錠
1×朝食後 28 日分
⇒フロセミド 20 mg 1 錠 + 分包半錠で交付。

③半錠にできないものは粉碎調剤する。

RP1 メルカゾール錠 0.5 錠
1×朝食後 28 日分
⇒粉碎調剤

④家族・家族等が半錠分包を望まない場合はそのまま交付する。

RP1 フロセミド錠 20 mg 0.5 錠
1×朝食後 28 日分
⇒そのまま交付。

4.散剤調剤の内規について

【散薬調剤の内規】

① 1包 0.3g に満たない場合は乳糖で賦形する。

例外) カマグ、顆粒、ドライシロップ など

② 分包製品がある場合は優先的に単独で交付する。

例) ベリチーム顆粒 3 g 3×食後 ⇒ 製品
ベリチーム顆粒 1.5 g 3×食後 ⇒ 分包

③ プラセボの乳糖は1包 0.5g とし、すべての表示は「SL」
(眠剤、痛み止めなど)

④ 用法が同じものについては以下の方法で判断する。

1) 番号でまとめられたもの ⇒ 混包
1. フロセミド細粒
アルダクトン細粒

2) 求める効果が明らかに違うもの ⇒ 別包
リン酸コデイン
アルダクトン細粒

3) 判断のつかないもの ⇒ 別包
(但し、患者の服用状況での混包判断可能)

5.粉砕調剤の内規について

【粉砕調剤の内規について】

- ①粉砕した場合は粉砕薬をふるいに通す。
- ②カプセル剤は脱カプセルで対応する。
- ③ OD錠等についてはそのまま交付する。
- ④錠剤・散剤の規格が揃っている場合、散剤に切り替える。
- ⑤ 特例) バイアスピリンについて
経口投与の場合：粉砕または破壊で交付。
経管投与の場合： バファリン 81 へ変更し、そのまま投与する。
- ⑥ 吸湿性等で粉砕できないものは他剤への変更を検討。
例) アスパラ K錠⇒ グルコン酸カリウム細粒

【粉砕の混合分包の内規】

- ① 日数が同じ場合は用法別に混合分包する。
例) A薬 1錠 朝食後 28日分
 B薬 1錠 朝食後 28日分
 C薬 2錠 朝・夕食後 28日分

↓

AB薬粉砕混包、C薬単独で粉砕する

- ② 調整の可能性が高い薬剤は、家族・施設と協議する。
(眠剤、便秘薬など)

6.一包化調剤について

【一包化調剤の内規】

- ① 基本的には眠剤、下剤、糖尿病薬は一包化しない。
例外) 施設、家族、医師が望まれるとき
施設 松風 : 上記ルール通り
施設 ソレイユ芦屋 : すべて一包化にする。

② 一包化不可の薬剤は入れない

・吸湿性の薬剤など

例) アスパラ K、バファリン 81、、ベルソムラなど

③ 原則、1科ごとに一包化する。

(但し 求められた場合は他科も一緒に一包化可能。)

内科 RP	ルプラック錠 4 mg	1.5 錠	28 日分
	<u>内科・消化器を一緒に一包化</u>		
消化器 RP	パリエット錠 10 mg	1 錠	28 日分
	<u>内科・消化器を一緒に一包化</u>		

◆ 調剤方法

① 処方日数

② 用法

} 同じ内容について一緒に一包化する

例)	A 薬	1 錠	朝食後	2 8 日分
	B 薬	2 錠	朝・夕食後	2 8 日分

↓

◆ 朝食後 A 薬 1 錠 と B 薬 1 錠 を一包化する。
◆ 夕食後 B 薬 1 錠 を一包化する。

【1 包化調剤の交付方法】

① すぐに交付

30分或いは1時間程度待つことが可能な患者

② 3時以降交付

夕方薬を取りに来ることが可能な患者

③ 日交付

翌日以降に薬を取りに来れる患者

★今後は各交付施設で調整ください。

7.簡易懸濁法について

【簡易懸濁法】

- ① 55℃で溶解する薬剤はそのまま交付。
但し、一包化の患者には、分包して交付する。
- ② 破壊後、溶解する薬剤は、乳棒で亀裂をいれて分包し交付する。
例) プラビックス、パナルジンなど

【簡易懸濁法 注意が必要な薬剤】

- ①ネキシウム+食塩
食塩存在下で硬くなり、崩壊しなくなる
⇒食塩の追加は栄養剤もしくは水に入れる
- ②メネシット+マグミット
アルカリ性下でメラニンを生じ黒色化
⇒マグミットを最後にする。
- ③アルロイドG
水で薄めると固くなり、通過できない
⇒別の薬剤へ変更する。

8.外用剤内規について

【液剤に対する内規】

- ① 秤量カップ等で交付できるよう1回が整数となるよう希釈する。
 - 1) シロップや内服液剤 ⇔ 蒸留水で希釈する。
 - 2) ネブライザー等吸入液 ⇔ 生理食塩液で希釈する。

【外用吸入剤】

1回量が整数になるように生理食塩液を加える。

例1)

ベネトリン吸入液	10.5ml	} 105ml
ビソルボン吸入液	21.0ml	
生食食塩液	73.5ml	
<u>吸入液 1日3回 1回5.0ml</u>		

例 2)

ベネトリン吸入液	7.0ml	}	70ml
ビソルボン吸入液	14.0ml		
生食食塩液	49.0ml		
<u>吸入液 1日2回 1回5.0ml</u>			

【点眼薬交付の内規】

① 点眼薬の本数分の遮光袋を交付。

例外) 遮光袋を望まない方には保管方法を指導する。

② 点眼薬【ベストロン点眼：期限1週間】

溶解の必要な薬剤⇒1本のみ溶解する。

(2本以降は溶解方法説明)

但し、残薬がある場合は2本とも溶解しない。

【外用薬調剤の内規】

① 吸入薬【スピリーバ：期限3か月以内】

⇒残薬の残り具合で、セット化を行う。

② 添付剤の半分使用【ビソノテープ、ツロブテロールテープ】

⇒添付剤の1/2枚の使用可能

(但し、切断面からの液漏れ防止のためテープで保護)

例) ビソノテープ 4mg 0.5枚 1×寝る前 14日

⇒ 7枚交付

③ 坐薬の半分使用のケース

⇒半分のみ、使用し、残りは廃棄する。

例) ナウゼリン坐薬 30mg 1個 1×吐き気時 5回分

⇒ 5個交付

④ 色ワセリン、プロペトは以下の使い分けを使用する。

白色ワセリン : 褥瘡患者 (粘着性があるので)

プロペト : 褥瘡患者以外 (伸びが良いので)

9.患者への説明の統一

① 除菌療法について

- ・軽い下痢、軟便では服用を続けること。
(但し、高熱や腹痛は継続すべきか医師へ確認)

② 抗癌剤の指導について

- ・最初の投薬開始時については病院薬剤師が行う。
(副作用等についても手帳内容で説明する)
- ・次回以降は抗がん剤手帳の記載で投薬を確認する。

③ 点眼薬の指導について

- ・3分～5分程度の間隔をあけて点眼することを指導。

④ 吸入薬の指導について

- ・DVDや試供品などを使用し、吸入が行えるか確認。
使用できない場合、家族協力を求める。
⇨不可能な場合は薬剤変更の提言を行う。

⑤ 骨粗鬆症薬 (VD 製剤) の指導について

- ・脱水による低 Ca 血症予防に十分な水分を促す。

【夏場の脱水による注意について】

夏場の脱水防止のため、十分な水分補給を説明。

(但し、水分制限がある患者には制限させること)

【骨粗鬆症の薬剤師外来指導】

病院薬剤師が指導済み

1) 副作用

インフルエンザ様症状 (背中や筋肉の痛みや頭痛など) があればご連絡ください。

2) 歯科受診

あごの痛みや歯茎の腫れがあればご相談ください。

【横紋筋融解症の説明】

1) 副作用

筋肉が痛い、手足に力が入らない、尿の色が濃いなど

2) 対応

上記症状が疑わしい場合は、医師へご連絡ください。

10.その他

①自己注射について

廃棄ボックスをその度に交付。

(エンブレル、アクテムラ、ヒュミラ、オレンシアなど)

⇒病院 処置室へ持参するようにお願い。

②フレーバーの交付について

エレンタール、ヘパン ED フレーバー

(コーヒー、青りんご、オレンジ、梅味) 交付患者あり。

③湿布用補助具の交付と説明

医師からの指示がある場合、補助具を説明・交付する。

11.疑義照会について

①保険に関すること：医事課が対応

病院代表番号 (093-222-2931) 医事係へ

○受付時間

月曜～金曜日 8:30～17:00

土曜日 8:30～12:30

修正が生じた場合、修正した処方箋を FAX してください。

FAX: 093-222-3005 (受付終了直前は一報下さい)

②処方内容に関すること：薬剤部が全対応

基本は FAX で薬剤部へ (状況により、電話も可)

薬剤部直通番号 (**FAX 兼用 093-222-3161**)

○受付時間

月曜～金曜日 8:30～17:00

土曜日 8:30～12:30

(上記時間外は翌日の返答になることがあります。)

参考資料：錠剤・カプセル剤粉碎ハンドブック (じほう)
内服薬 経管投与ハンドブック (じほう) 等